

Neuropsychological tests are useful for predicting comorbidities of idiopathic normal pressure hydrocephalus

メタデータ	言語: English 出版者: 公開日: 2023-06-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 蒲原, 千尋 メールアドレス: 所属:
URL	https://jair.repo.nii.ac.jp/records/2002935

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 2620 号

Neuropsychological tests are useful for predicting comorbidities of idiopathic normal pressure hydrocephalus

神経心理検査は特発性正常圧水頭症の併存疾患を予測することに有用である

蒲原 千尋 (かもはら ちひろ)

博士 (医学)

論文内容の要旨

特発性正常圧水頭症 (iNPH)は、高齢者に特有に発症し、脳脊髄液 (CSF) の吸収障害により歩行障害、排尿障害、認知障害の3徴に代表されるさまざまな神経障害を伴う。治療は、CSF シャントが唯一のエビデンスを持つ。アルツハイマー病 (AD)やパーキンソン関連神経変性疾患 (PS)など神経変性疾患が併存する場合、シャント治療の長期予後に影響する。しかし併存疾患の有無は、初期神経症状からは判断が困難であり、核医学などの高価な画像検査による補助診断は、必ずしも施行可能でない。本研究は、神経心理検査評価を用いて、iNPH の併存疾患の有無を予測することを目的として行われた。

iNPH ガイドラインに準じて診断した 49 人の Probable iNPH 患者を対象とした。リン酸化タウ (30pg/mL 未満) とドーパミントランスポーターシンチグラフィ (specific binding ratio, SBR \geq 3.0) にて、併存神経変性疾患のない iNPH (グループ 1)、AD 併存 iNPH (グループ 2)、PS 併存 iNPH (グループ 3) の 3 群に分類した。術前 4 つの神経心理検査 (レイ 15 語聴覚性言語学習検査 (RAVLT)、ペグボードテスト、ストループ検査 Colour Naming、Interference) を Hellstrom らが作成したヨーロッパ重症度分類 (EU-iNPH-Scale (Cognition)) の換算表を用いて 0-100 に点数化し、各神経心理検査および合計で 3 群間を比較した。

術前の神経心理検査の結果、グループ 2 はグループ 1 と比較し、RAVLT 検査で低値であった ($p=0.015$)。また、グループ 3 はグループ 1 と比べてペグボードテストとストループ検査 Colour Naming と Interference の結果が有意に低値であった ($p=0.006$, $p=0.009$)。グループ 2 とグループ 3 の検査結果の比較では有意差はなかった。以上より、EU-iNPH-Scale (cognition) は、iNPH と併存疾患の有無を区別し得た [AUC 0.787 (グループ 1 vs 2) と 0.851 (グループ 1 vs 3)]。

iNPH 患者に対する EU-iNPH-scale の 4 つの神経心理検査は、併存神経変性疾患の有無を鑑別し、シャント治療の予後予測に有用であった。